

タイトル：令和元年度 大阪アミューズメントメディア専門学校

第1回 学校関係者評価委員会

開催日時：2020/2/4（火） 18:00-20:15

開催場所：大阪アミューズメントメディア専門学校 6F ライブラリー

出席者：外部委員3人 / 赤松加枝子（大阪放送株式会社 編成部長）、

香川悟（一般社団法人デジタルエンターテインメントクリエイター協会理事）、

多胡喜伸（滋賀県立玉川高等学校美術科教諭）

学校側出席者10 / 中野 俊勝（学校長）、橘高雅彦（事務長）、森憲司（教務部長）、

住江浩知（事務局副部長）、下間正巳（教務ゲーム学科統括部長）、

朝日庸平（事務局入学相談室課長）、巨勢佳美（声優学科・学生相談室）、

小畑貴彦（ゲーム・アニメ 3DCG 学科課長）、脇功一（キャリアセンター課長）、

三浦奈緒（キャラクターデザイン学科課長）

傍聴者数：1人

議題：（1）大阪アミューズメントメディア専門学校の学校自己評価について

（2）高等教育無償化について

（3）職業実践専門課程について

（4）特待生制度について

（5）令和2年度学校関係者評価委員会日程について

（6）その他

教育理念・目的・育成人材像等

・評価された点

PR 方法について、学生募集のための宣伝方法として、マスメディアによるものよりも説明会や高校訪問での関係構築が功を奏し、またそれが大阪アミューズメントメディア専門学校（以下 AMG）としての実績にも繋がっている。

現場意識主義の産学共同実践教育の学校として、学生生活から業界の現場により近い環境となっている。

・改善、留意が必要と思われる点

アミューズメントメディア総合学院 大阪校から、現在の専門学校へ変遷したことで、学生の質も変化してきている。2年という期間で、実践的なことのみだけではなく、人間性に関することの教育も必要となってきている。そのために3年制ということも検討の段階に入っている。

学校運営

校舎・設備について、利便性や機能性はあるが、一般的な学校にあるようなグラウンドなどの設備は設けられていない。ただし、基準はクリアされており、学生の様子から察するにそれらはさほど懸念すべきものではない。今後も学生を第一に考えた環境整備が期待される。

教育活動

・評価された点

声優学科から大阪放送株式会社へインターンシップに行っている学生の様子から、企業側との良好な関係の構築が理解できる。

学生が社会に出た際に必要なものが身に付けられる環境である。

・改善、留意が必要と思われる点

取得単位数が決められている関係もあり、現状あまり余裕がないカリキュラムとなっているが、学生を育てていくという点で、クラブ活動といったことで、余裕を持たせる検討が今後必要か。

エンタテインメント業界では資格よりも実力が重要視される傾向があるが、選択授業などで資格をとれるようにするなどの取り組みも期待される。

学修成果

・評価された点

高い就職率を確立している。

再就職の際の相談、対応なども積極的に行われていることが認められる。

・改善、留意が必要と思われる点

卒業生について、関連業界に進んだ OB・OG については就職後の把握ができているが業界以外に就

職した学生については繋がりが弱くなる傾向がある。OB・OG ネットワークを持っているので、それらの更なる活用方法などの検討が必要である。

学生支援

学生の質の変遷に伴い、教職員向けの学生メンタルヘルスケアに関する研修の開催などの取り組みがなされていることが理解できる。

学科同士の繋がりや、同級生との交流のため、また、学生生活をより豊かなものにするためにも、課外活動やクラブ活動等の導入も必要と考えられる。

エンタテインメントの社会的貢献のため、学生の視野を広げる、知識を深めるといったことのためにも、関連セミナーや、舞台、映画の機会を設け、体験させることも学校の役割であると考えられる。

教育環境

教育環境は整備されていると認められる。

国際交流

自己評価点が低いことについて。単なる留学生の受け入れをするのではなく、その先の就職、活躍の場が保障されることができれば、国際交流についても対応を検討していることが理解できる。

(2) 高等教育無償化について住江氏より資料に沿って説明がなされた。

(3) 職業実践専門課程について、同じく、住江氏より資料に沿って説明がなされた。

(4) 特待生制度について、朝日氏より説明がなされた。

(5) 令和2年度学校関係者評価委員会日程について橋高理事より説明がなされた。

今後の学校関係者評価委員会について、9月頃、2月頃の年2回の開催を予定している。

また、学校関係者評価委員については増員も検討している。

1. 中野校長より、閉会の挨拶及び、今回の委員会開催に際しての謝辞が述べられた。

以上